

サインの有効性を高める要素に関する研究

平手 小太郎（東京大学 大学院工学系研究科 建築学専攻）

■ 概要

サインは公共施設や商業施設をはじめとした様々な施設に設置されている。近年は駅や商業施設において大型化・高機能化が進み、空間構成は非常に複雑化しており、サイン計画の重要性が増している。

サイン内容の利用者への的確な伝達、すなわちサインの有効性を高めるには、問題点の整理・把握のためサインの機能の体系化を図ること、迅速に理解できるように盤面内情報の判読性を高めること、周囲の阻害要素との関係も考慮し、サイン本体の誘目性や視認性を上げることなどが重要になる。

以上の目的を達成するためには、多面的な観点からの検討が必要になるが、本研究では特に重要な要素に着目し、複数の実験を並行して行った。

本研究は、以下の4部から構成されている。

■ 1 誘導サイン情報の分かりやすさに関する研究: 盤面内の情報分離度について¹⁾ (A Study on Comprehensibility of Information of Induction Signs: Degree of Information Separation in Signboards)

人が集まる場所には多くの誘導サインが設置されており、利用者が迅速かつ安全に目的地へ向かうための情報を与えている。これらの内容を正確に伝達するためには、情報が簡単に理解できるものにするのが重要である。盤面内の具体的なルールを用意することが、複雑な内容であっても分かりやすい盤面にする一助になると考えられる。本稿ではサインの余白による情報の分離に着目し、サイン盤面内にある2つの目的地情報の間の幅を調整させる実験を行った。その結果、「2つの隣り合う情報が別の情報の塊である」と認識するための幅の閾値や、境界線や色分けなど、分け方によって分離度がどのくらい異なるかを一元的に示すことができた。

■ 2 外国語表記がある駅のサインの判読性に関する研究²⁾

今後、来日する外国人が増えることが予想される。本稿では、4カ国語表記と2カ国語表記の外国語表記がある駅のサインについて、判読性に影響があると考えられる行間や字間を変化させた評価実験を行い、サインの有効性を高める要素に関する適切な値を提案するものである。実験1で、2言語表記より4言語表記サインにおいて有意差がみられ、4

言語表記サインの字間は標準状態である100%の評価が高いことが示された。実験2での4言語表記の結果により、行間は100%が良い、字間は100%が良い、また、中国語圏の人に対しては母国語を表記する必要があることが示された。

■ 3 調整法による駅コンコースのサインの見つけやすさの定量化に関する研究³⁾

近年、駅空間内の視環境が複雑になり、これらのサインの誘目性や視認性を評価するのは容易ではない。そこで本稿では、サインや広告などの目の引きやすさの程度を定量化することを目的とし、相応のシステムを構築し、調整法により駅コンコースのサインの見つけやすさ実験を行った。対象サインの状況から検討し、色の対比の観点から、対象サインの凶色と地が同系になっている場合は低く評価される傾向が見られた。また、広告有無の要因は強い影響があると考えられる。サインの形式から見ると、広告サインが低く評価された可能性が示唆された。

■ 4 サインの機能性評価とその体系化に関する研究⁴⁾

サインの役割を考慮したサインの評価法が明確ではない。本稿では、実在するサインの調査と経路探索実験で得られた利用者側のサイン評価をもとに、サインの役割を考慮したサインの機能性評価とその体系化について検討した。その結果、サイン事例調査から公式サインが不足している場合、追設サインとして誘導サインが設置されやすいという状況が確認できた。経路探索を利用したサイン評価実験からは、案内系サインの分かりやすさが、サイン計画全体の機能性に大きな影響を与えることが推察された。

■ 発表予定論文

1) Nishikawa, M., Hirate, K.: A Study on Comprehensibility of Information of Induction Signs: Degree of Information Separation in Signboards, Proceedings of CIE, June 2019

2) 李雅倩, 西川麻里奈, 平手小太郎: 外国語表記がある駅のサインの判読性に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2019年9月

3) 馬也, 西川麻里奈, 平手小太郎: 調整法による駅コンコースのサインの見つけやすさの定量化に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2019年9月

4) 近藤雅貴, 西川麻里奈, 平手小太郎: サインの機能性評価とその体系化に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2019年9月